円高・円安

つかむ!

円高 ／ 円安　*Yen's strength／Yen's weakness*

円高は他国の通貨に対して円の価値が上昇すること。円安は逆に下落すること。

わかる!

1　円高／円安

外国為替相場（９月号参照）が１ドル＝１２０円から１ドル＝１００円になったと仮定します。１２０円が１００円になったので円が安くなったと勘違いしそうですが、１ドルの物を買うのに以前は１２０円必要だったのが１００円で買えるようになった。つまり、円の価値が上がったということです。これが円高です。

一方、例えば１ドル＝１２０円から１ドル＝１４０円になった場合、１ドルの物を買うのに２０円多く支払わなくてはならなくなります。円の価値の低下です。これが円安です。

普通、円高・円安という場合、対米ドル相場の動きを表していることが多く、この場合、「円高＝ドル安、円安＝ドル高」の関係が成り立ちます。

2　円高の影響

円高は基本的には、輸出取引には不利、輸入取引には有利に働きます。

円高になると輸出型企業は、円表示での売上金額や利益を確保するためドル表示では値上げするか、または円表示での減益を覚悟の上でドル表示の価格上昇を最小限におさえるか、選択を余儀なくされます。前者は価格面での国際競争力が減退し、売上数量の減少を招きます。後者はもちろん企業の収益を圧迫しますし、過度の円高になると採算ラインを割り込むことも起こり得ます。海外への進出という選択肢もありますが、国内産業の空洞化やそれに伴う失業の増大などの社会的な問題も発生します。

●○関連知識○●

為替リスク

ドルなど外貨で資産を保有していると、為替相場の変動により、円に換算した資産が目減りする危険があること。逆に差益が生じることもある。円高になれば損失が、円安になれば差益が生じる。

輸入の場合は、支払うべき円が減少するため、品物をより安く買えるようになります。企業は原油や原材料が安く手に入れば生産コストを抑えることができます。よく円高の恩恵が末端の消費者までは行き渡りにくいといわれていますが、１００円ショップや低価格衣料品店などには中国産等の輸入品が並んでいます。これらが最近の物価下落の一因であることは言うまでもありません。しかし、安価な輸入品の増加が国内産業を圧迫することも事実です。影響は貿易に関係ない内需型の産業にも及びます。

貿易以外では一定金額の円で、より多くのドルが手に入るようになるため、外国への投資や旅行の際に有利になります。

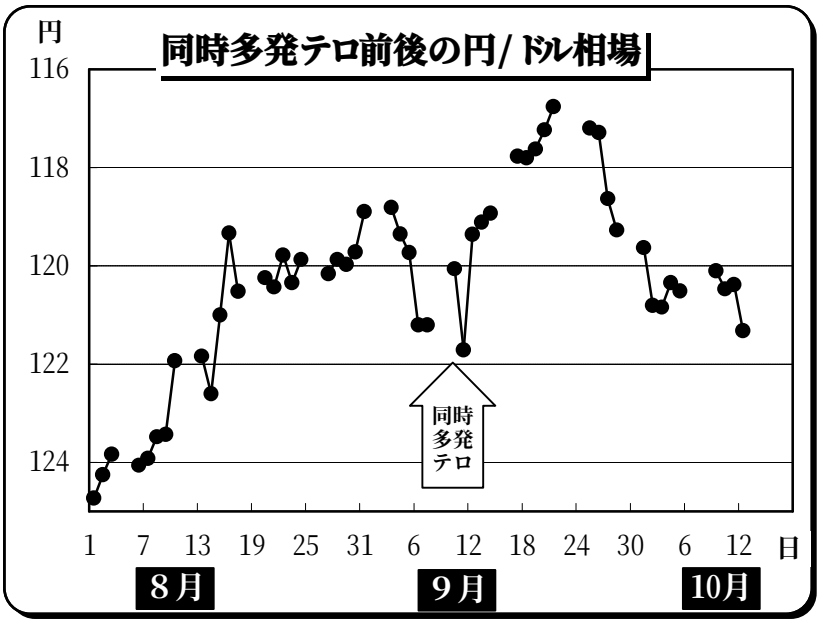
3　円安の影響

円安は円高と逆の効果を生じさせます。輸出取引には有利、輸入取引には不利に働きます。輸出が増加することにより、米国などとの貿易摩擦が発生したり、輸入品の価格上昇が、企業の生産コストを上昇させ、家計にも物価の上昇や賃金の引き下げ等影響をもたらしたりします。外国からの投資や海外からの観光客には有利となります。

●○関連知識○●

有事のドル買い

戦争など国際的に大きな事件が発生した場合、ドルが買われ、為替相場は円安/ドル高に振れることが多い。しかし、今年 9 月に発生した同時多発テロではアメリカ経済の中枢部が被害を受けたため、テロ発生後は円高/ドル安となった。

（グラフ参照）

みる!